

# クライテリア項目一覧利用ガイド

第1.1版

2018年8月14日



この作品は [クリエイティブ・コモンズ 表示 - 継承 4.0 国際 ライセンス](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) の下に提供されています。

クライテリア項目一覧/利用ガイド©2018 TIS INC. クリエイティブ・コモンズ・ライセンス（表示-継承 4.0 国際）

# クライテリアとクライテリアマネジメント

---

## クライテリアとは

クライテリア(Criteria)とは、主要タスク(開発工程等)の開始(Entry)/終了(Exit)を判定する「評価基準、判断基準」

## クライテリアマネジメントとは

クライテリアマネジメント(Criteria Management)とは、クライテリアの合意、クライテリア達成に向けたP J 監視・コントロール、達成度の最終合意の総称。

# 目的とねらい

## 目的

### **P J 目標達成に向けた到達点の明確化と計画の確実な実行**


主要タスク（工程等）毎にクライテリアを定義し、達成度をPJの途上から確認することで、目標達成確率を高める。  
特にウォーターフォール開発の場合では、工程が輻輳するPJにおいて、次工程の開始条件を明確にし、達成に導くことが工程終了達成にもつながる。

### **P J 関係者の協力関係を強化**

目標を共有し、達成に向けた役割を明確にすることで、PJ一丸となった協力体制を確立し、PJの成功確率を高める。

## ねらい

**PJマネジメント活動を健全に機能させ、PJリスクの早期発見、問題拡大の未然防止を図り、PJを成功に導く道標とする。**



## 利用上の注意

---

## 自社開発での利用

---

本コンテンツは、受託開発を想定した記載となっています。

自社開発で利用する場合は、  
「顧客」を「プロダクトマネージャー」と読み替えて利用してください。



## クライテリアの内容

---

## クライテリア項目の内容

---

クライテリアは、プロジェクト内だけでの利用ではなく、顧客やパートナー等のステークホルダーとの状況の共有にも利用するものです。

そのため、クライテリア項目には、

- ・プロジェクト内の評価達成基準（進捗の達成度や当たり前品質等の評価）
- ・パートナーとの評価達成基準（進捗の達成度や当たり前品質、受入基準の評価）
- ・顧客との評価達成基準（利用品質等の受入基準の評価）

を含めるようにします。

※クライテリアマネジメントの進め方次第では、顧客が実施する判定については顧客側で別途管理する場合があります。

## スクラム開発におけるクライテリア

スクラム開発におけるEntryクライテリアの確認は、各プロダクトバックログや各スプリント、リリースの「Readyの定義」の状況確認と同義です。

スクラム開発におけるExitクライテリアの確認は、各プロダクトバックログや各スプリント、リリースの「Doneの定義」の状況確認と同義です。

クライテリアマネジメントとReadyの確認、Doneの確認を別々に考えるのではなく、Readyの確認項目 = Entryクライテリア項目、Doneの定義 = Exitクライテリア項目と考えてください。  
つまり、審査時点で必要な全てのReadyの定義がチェックされていることがEntryクライテリアの合格であり、同様に審査時点での全てのDoneの定義がチェックされていることがExitクライテリアの合格になります。





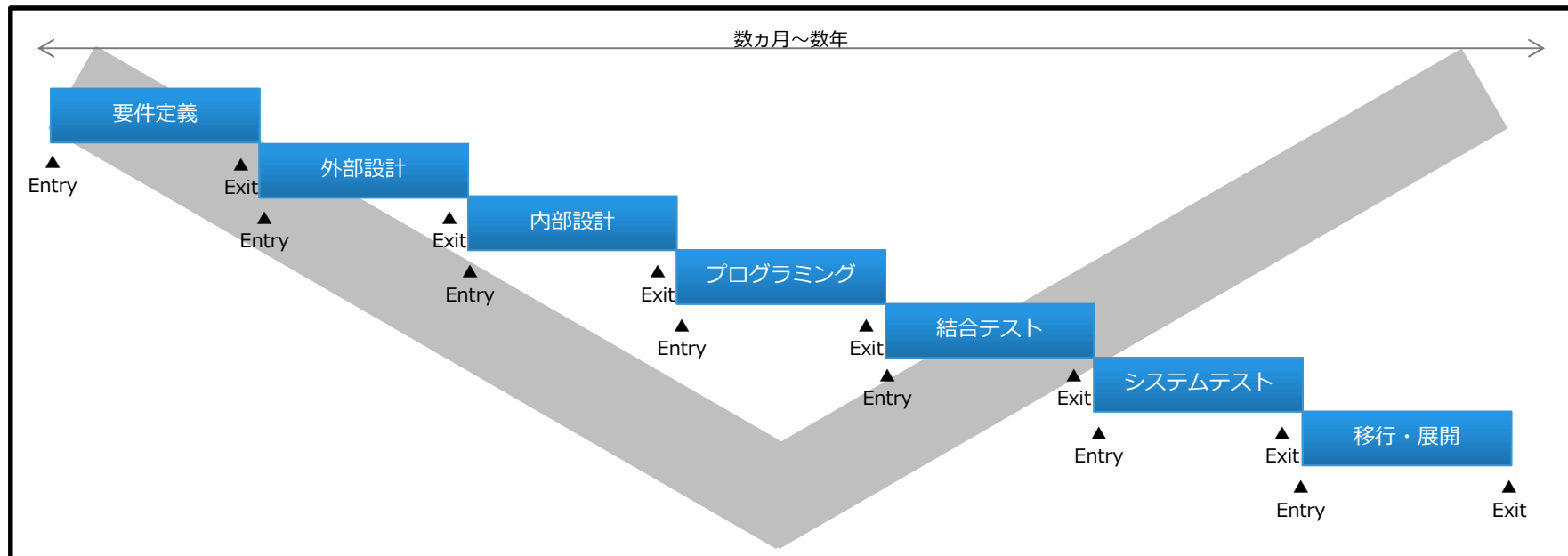
## クライテリア審査の実施タイミング

---

## ウォーターフォール開発

ウォーターフォール開発（V字開発プロセス）の審査タイミングは以下の通り。

- ・各工程の開始前にEntryクライテリア審査を実施する。
- ・各工程の終了前にExitクライテリア審査を実施する。
- ・各工程の途中で、Exitクライテリア項目の途上確認を実施する。
- ・各工程の途中で、次工程のEntryクライテリア項目の途上確認を実施する。



## スクラム開発

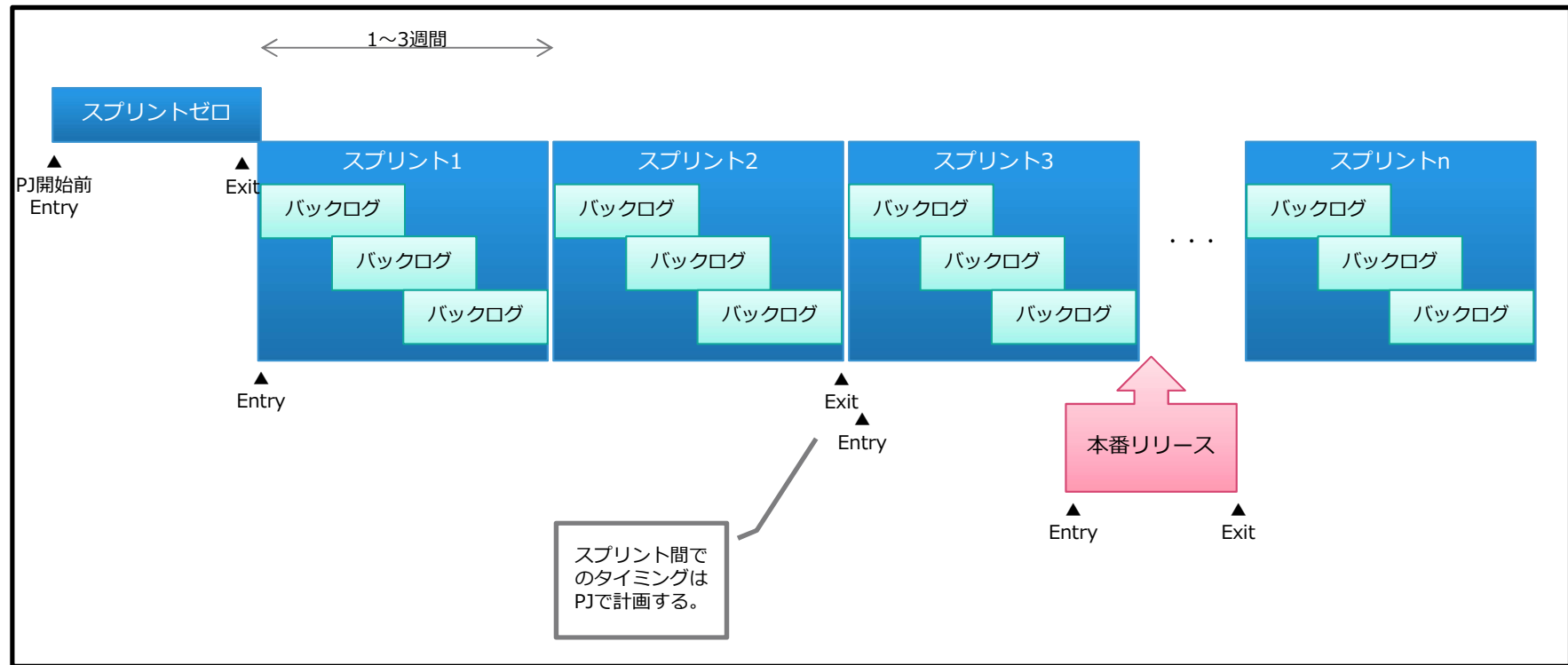
スクラム開発の審査タイミングは以下の通り。


- ・PJ開始前にEntryクライテリア審査を実施する。
- ・スプリントゼロ終了前にExitクライテリア審査を実施する。
- ・スプリント開始前にEntryクライテリア審査を実施する。(※1)
- ・スプリント終了前にExitクライテリア審査を実施する。(※1)
- ・本番リリース前にEntryクライテリア審査を実施する。
- ・本番リリース後にExitクライテリア審査を実施する。
- ・審査間の途中で、Exitクライテリア項目の途上確認を実施する。
- ・審査間の途中で、次のEntryクライテリア項目の途上確認を実施する。

### ※1

スクラム開発では各スプリントは1～4週間程度の短い期間で実施される。スプリント毎に審査を実施する場合、常に審査している状態となる。そのため、数スプリント毎に審査を実施するようにしても良い。

# スクラム開発





## クライテリア項目一覧の利用方法

---

## クライテリア項目一覧の利用方法

---

- クライテリア項目一覧はEntry審査用、Exit審査用のシートを用意している。
- 審査項目はPJ特性に応じて修正を実施する。
- クライテリア審査時期を計画し、計画された数だけシートを複製する。
- A列～K列で各タイミングの審査で必要な項目をフィルタリングする。
- フィルタリング対象項目はPJ特性に応じて修正を実施する。